連載：原点

評価の変化から学んだこと

茂原高等学校　才川 尚輝

私は今年度採用されるまで，高校講師を経てから２年間，中学講師を経験しました。より低い年齢の生徒と接することや，より基本的な内容の授業を行う中で，中学校でのやりがいや大変なことを知り，多くのことに気づかせていただいた２年間でした。その中でも３観点での評価について考えを深めることができたことが特に印象に残っています。

中学校での講師を経験するまでは，新学習指導要領が施行される前であったこともあり，定期テスト作成時にはテスト範囲からまんべんなく出題することを特に意識していました。また，テスト終了後はその結果を受けて，自分の授業の達成度の確認を行い，その後の授業改善を行うことで，テストの機会を生徒の学力評価以外でも有意義に活用できていると考えていました。中学校での勤務の中で３観点での評価に初めて触れ，最初はどの評価材料を「知識・技能」として扱い，「思考・判断・表現」として扱うのか，特にテスト作成時に苦労しました。様々な先生の作成したテストを見せてもらい，指導していただく中で「思考・判断・表現」の問題とは生徒がどのような目線で問題を読み取り，どのような考え方をもってほしいかを出題者が考えて作成することが重要であると捉えることができました。また，観点ごとの評価方法を意識することで，日頃の授業の中でもその日の単元を通して習得してもらいたい知識・技能に加え，どのような思考力・判断力・表現力を養いたいかを考え，授業準備に取り組めるようになりました。評価について考えることが，生徒に身に付けさせたい力を考えることにつながると実感しました。

今年度，茂原高校では１年生の数学Ｉを担当させてもらっています。中学校で学んだことを活かして今まで以上に生徒の力を伸ばせる授業がしたいと意気込んでいました。しかし，１学期の授業では，思うように授業を展開できないことが多く，改めて高校数学での知識・技能を習得させることの難しさを感じました。特に二重根号をはずすことを主に扱った授業では生徒に十分な説明を行うことができなかったことから機械的な二重根号の外し方が中心の授業となってしまい，根号内を２乗の形としてとらえる過程や二重根号を外す際の数字の大小関係について生徒が考える時間を十分に取ることができませんでした。

２学期以降は他の先生方の授業を参考にして，より確実な知識・技能の習得に加え，思考力・判断力・表現力の養成ができるよう，努力していきたいと思います。また，「主体的に学習に取り組む態度」についてもよりよい評価方法について考えることで，生徒が主体的に学習に取り組みやすい環境づくりができるのではないかと思います。残りの初任者研修や研究授業を大切にしながら，日々精進していきたいです。